



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Winter 2019 (Serial No.77)

日露対話「複雑化する北東アジア情勢と日露関係」

グローバル・フォーラム (GFJ) は、ロシア科学アカデミー (RAS) との共催により、12月4日、東京で「日露対話：複雑化する北東アジア情勢と日露協力の可能性」を開催した (写真)。

冒頭の開幕挨拶のなかで、伊藤憲一 GFJ代表世話人は、本日の「対話」は、必ずしも領土問題のみをテーマとするものではないが、第二次世界大戦後の国際秩序を構成する普遍的価値観は、大西洋憲章、カイロ宣言、国連憲章などであって、そのいずれもが「領土不拡大」主義を貫いているとして、とくにカイロ宣言が「(日本は) 暴力および貪欲により略取した地域 (満州、台湾、朝鮮など) 以外からは駆逐されない」と述べていることを指摘した。

このような問題意識から、当日は、ロシア側より、ヴァレンティン・セルギエンコ RAS 副総裁兼極東支部会長、ヴィクトル・ラーリン RAS 極東支部副会長、ヴィクトル・ゴルチャコフ元ロシア沿海地方立法議会議長、ピョートル・バクラノフ RAS 極東支部太平洋地理学研究所長、セルゲイ・ペストフ RAS 極東支部アジア太平洋研究センター主任研究員の5名を東京に招聘



し、袴田茂樹 GFJ 有識者メンバー (新潟県立大学教授)、森本敏 GFJ 有識者メンバー (拓殖大学総長)、廣瀬陽子 GFJ 有識者メンバー (慶應義塾大学教授)、鈴木馨祐 GFJ 政治家世話人 (財務副大臣) などの日本側参加者総勢109名と活発な「対話」を行った。

特に注目された発言のみ、つぎの通り。

●**ヴィクトル・ラーリン氏**：北東アジアで、露日双方が、それぞれ対中関係を重視しており、露日関係改善は両国の外交アジェンダの上位にはない。露日双方の国内で、二国間関係を変えようとする勢力がないのが問題だ。

●**袴田茂樹氏**：長い間日本は、「政経不可分」の方針で領土交渉に臨んでき

たが、その後、「拡大均衡」の方針へと推移し、この方針は今でも有効である。他方、これまで何十年にもわたり日本政府が一貫して進めてきた領土交渉の努力が、最近、否定、あるいは後退していることに危機感を覚える。

●**ピョートル・バクラノフ氏**：「環日本海インフラ輸送リング」構想を提唱したい。同構想には、港湾建設や鉄道敷設、ガスパイプライン建設等も含まれており、日本海周辺の大規模な国際統合帯形成の基礎となる可能性がある。

●**ヴィクトル・ゴルチャコフ氏**：北極海開発は、ロシアにとっての「一帯一路」に匹敵する。ロシアの今後の発展の可能性は太平洋と北極海にある。日本の協力に期待したい。

AI時代の国際政治を迎えるにあたって

第306回国際政経懇話会は、9月12日に**軍学者の兵頭二十八氏** (写真中央) を講師に迎え、「AI時代の国際政治」



と題して、次のような講話を聴いた。

AI (人工知能) は世界を安定させるか、あるいは混乱させるか、と問うたならば、答えは後者である。AI による混乱から社会を守る要諦は、「古い技法の温存」しかない。例えば GPS 信号を敵国によって攪乱されても、古い方位磁石があれば、最低限、概略のナビゲーションはできる。今後、AI がもたらす中期的な社会へのインパクトは「失業」である。例えばもし、ロ

ボット運転自動車が普及すると、配車サービス業界は大発展する反面、自家用車の「私有」はほとんどの世帯にとって無用となり、自動車産業が衰退するかもしれない。そうなった後の日本経済をどう回していけばよいのか、今から官・学・民で考えておく必要がある。9000万人が働かない日本社会、9億人が働かない中国社会の消費構造が、一体どうなるのか、今から真剣に考える必要がある。

議論百出から

グローバル・フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上のe-論壇「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

「一带一路」日中協力と日本

駒澤大学教授／GFJ有識者メンバー 三船 恵美

さる9月4日、中国とアフリカ53カ国の首脳等が参加する「中国・アフリカ協力フォーラム (FOCAC) 北京サミット」(於: 北京人民大会堂) が開催された。FOCACでは、今後3年間の協力の行動綱領となる「より緊密な中国アフリカ運命共同体の構築に関する北京宣言」と「FOCAC北京行動計画」が採択された。同計画では、人材育成のためにアフリカのエリート1000人の研修提供、5万人への奨学金授与などが含まれ、中国によるソフト面での影響力拡大が読みとれる。また、FOCACで、中国はアフリカに対して「5つのない」を要求した。すなわち、(1) 発展の道を探ることに干渉しない、(2) 内政に干渉しない、(3) 自

らの意志を他国に押しつけない、(4) 対アフリカ援助においていかなる政治的条件もつけない、(5) 対アフリカ投資・融資において政治的私利を謀らない、の5点である。これはまさに「ワシントン・コンセンサス」への挑戦であり、支援対象国に民主化や自由化などを求めない「北京コンセンサス」への呼び込みであろう。日本政府は日中関係が「正常に戻った」と強調する。しかし、「一带一路」を念頭に進められる第三国における日中協力が日本にもたらすのは、Win-Winの関係なのだろうか。Lose-Winで失うことになるのは、日本が掲げる「価値観外交」への国民の信頼や誇りではなからうか。(2018年10月2日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 11/27 「北方領土は戻らず棚上げのま
まか」(中村仁) | 10/ 1 「安倍内閣に対する世界の関
心」(真田幸光) |
| 10/17 「憲法9条1項における『国際
紛争』」(緒方林太郎) | 9/11 「リラ急落で中国に急接近する
トルコ」(六辻彰二) |
| 10/ 1 「社会科学と哲学・人文学の境
界」(池尾愛子) | 9/ 4 「憲法改正における防衛関連
条項」(佐藤有一) |

グローバル・フォーラム活動日誌 (9-12月)

- | | |
|---|--|
| 9月1日、11月1日 『メルマガ・グ
ローバル・フォーラム』(通巻第
84号、第85号) 発行 | 問他22名) |
| 9月12日 第306回国際政経懇話会(軍
学者の兵頭二十八氏他22名) | 12月4日 日露対話「複雑化する北東
アジア情勢と日露協力の可能性」
(Valentin SERGIENKO ロシア科
学アカデミー副総裁兼極東支部会
長、伊藤憲一 GFJ代表世話人、袴
田茂樹新潟県立大学教授、廣瀬陽
子慶應大学教授等109名、国際文
化会館にて) |
| 10月1日、12月1日 『GFJ-E-Letter』
(通巻第70号、71号) 発行 | |
| 11月7日 第149回外交円卓懇談会(金
在信韓国国立外交院日本研究所顧 | |

韓日関係の現状を どう見るか



11月7日、金在信韓国国立外交院日本研究所顧問(写真)は、当フォーラムの第149回外交円卓懇談会において、標題のテーマについて、次のように語った。

本年は金大中元大統領と小渕恵三元首相が締結した「韓日パートナーシップ宣言」から20周年を迎えた。

過去20年間の韓日関係を振り返ると、両国関係は、この宣言が締結された1998年頃がピークであった。その背景には、1988年のソウル五輪の成功で韓国の力を世界に示すことができた他2002年ワールドカップ日韓共同開催や日本での「韓流ブーム」などにより人的・文化交流が活発化し、両国間で親近感が高まったことが挙げられる。

しかし、こうした非政治分野での韓日交流が盛んに行われる一方、歴史認識の違いによって韓日関係が悪化するという構図は残されたままだ。最近の世論調査によると、韓国の若者の間で、日本の「居酒屋」が人気で、対日イメージは向上している。今後、こうした認識を、いかに歴史認識によって悪化させないかが課題だ。

2020年は、東京五輪の開催に加えて、韓日国交正常化55周年でもあり、この年を一つの契機として、両国の関係を深化させるべきだ。

■新規メンバーの紹介 (11月分)

【有識者メンバー】

常盤伸 東京新聞外報部次長



グローバル・フォーラム会報
2019年冬季号 (通巻第77号)

発行日 2019年1月1日
発行人 渡辺 蘭
編集人 高畑 洋平

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp
[Fax] 03-3505-4406 [URL] <http://www.gfj.jp/>